



中高生とともに差別と闘う

『誰かが見てくれている』

吉成タダシ



音のある世界

前号に続き、部活動についても一つ。

出勤時、毎朝学校の手前百メートルくらいのところから、パーパパーと軽快な音が聞こえてきます。吹奏楽部が朝練をしている音です。「あー、朝だなあ」と思います。

私の自宅のすぐそばにも学校があります。休みの日には、ダンダン、パーンと剣道場の踏み音や竹刀がはじける音。カッキーとボールが高く舞い上がったようなバットの金属音。パーパパーや、高音のピロピロピーや、低音のボーボーなど楽器を奏でる音。時たま聞こえてくる、学生の笑い声。そんな音が耳に入ってくるたび、頬が上がり、クスッと少し笑ってしまいます。そんな音の数々が、私自身を癒やしてくれるのです。でもきつと学生たちは、そんな風に思っている人がいるなんて、思ってもいないのではありません。

宮沢賢治の作品に「セロ弾きのゴーシュ」という童話があります。楽団員のなかで一番下手なチェロ弾きのゴーシュは、音楽会に向けて懸命に練習をします。家に帰っても夜中まで練習をするのですが、そのうち、三毛猫やらカッコウやら子ダヌキ、野ねずみまでがちょっかいを出しにやってきます。それに惑わされそうになりながらも、ゴーシュは負けじとチェロの練習に没頭します。猛特訓の成果もあり、音楽会は大成功に終わるのですが、どうやらゴーシュ

が夜な夜な弾いていたチェロの振動で、動物たちの病気が治っていたというのです。そんなことを知らずに、有り難がって来た動物たちに酷いことをしたと、ゴーシュは自分をふりかえるところで物語は終わります。

山村に暮らす友人が、「子どもの声が聞かれなくなって寂しい」と漏らしたことがあります。少子化で学校の統廃合が進み、地域に小学校や幼稚園がなくなったからです。

一方、「グラウンドの土埃が飛んできて汚い」とか、「校庭の木々から飛んでくる葉っぱをどうにかしろ」とか、「子どもの声がうるさい」と、クレームを言ってくる住民もいます。それなりの理由があるのでしょうが、もし町から子どもの声が消えてしまったら、どうでしょう。子どもや次の世代に寛容でない世の中は、世も末です。もちろん、いけないことは叱らねばなりません、自分のその歳の頃を思うと、「まあそんなものだったかな」と、妙に納得してしまったりもするものです。もともと子どもたちに寛容で、その奏でる音が楽しめたら、と思います。

誰かが見てくれている

話を前号のバレーボール部に戻します。前号の原稿を、最後の大会直前、担任の先生方に見ていただきました。

その日の下校時、学校の玄関口を通ろうとすると、待ち構えていたかのように、集まっていたバレーボー

ル部員につかまりました。そして、「先生、ありがとうございます」と、口々に言い始めるのです。咄嗟に、「どなたかの先生が原稿を見せたかな」と勘づきました。「泣きそうになりました」と言う子の眼には、もうすでに涙が盛りあがっていたので、「もう泣いてるじゃない(笑)」と二人で泣き笑い。

翌日、部員の一人が、「お母さんから手紙を預かってきました」と、手には茶封筒。ドキリとしつつ、一人ひっそりと封を開け読みました。

*

はじめまして、○○○○の母です。先日は子供達の練習試合に応援ありがとうございました。挨拶も出来なまま失礼致しました。そして、本日娘より一枚のお便りを手渡され、読ませて頂きました。目には涙がたまり、胸がグツと熱くなり、一言お礼が言いたくて、勝手ながらお手紙を書かせて頂いた次第です。

帰宅して娘がこのお便りを手渡ししながら、「バレー部みんなで読んでみんな泣いた。うれしかった」と言いました。

この子達は書いて下さった通り、たった六人ですががんばってきました。ボールを拾ってくれる人もいず、走って走って。つらかった時期があり、何度も心が折れそうになる子供達を見、私たちも色々心配しながら、なんとかやってきました。

なかなか勝てない現実はあるけど、この六人はずっと仲良く、「絆

が出来ていることに私は感心し、とにかく六人で最後までやり切ってほしいと思っていたので、先生のこの文には、バレー部員、保護者、全員が同じ事を思ったと思います。「ちゃんと見てくれる人がいたんだ」と。本当にありがたいです。

悩んで悩んで、バレーボールが嫌いになり泣いたことも。でもこの文を読んで娘は、ちゃんと見てくれてたんだ。分かってくれてたんだ。応援してくれるんだ。と、自分がちゃんとバレー部で存在し、やった事を認められたと感じたと思います。

総体の直前に、バレー部の子供達には大きな大きな力になりました。「皆が、楽しく、この六人でバレーをやるろう!!」

そんな気持ちでさらに団結させてくれるものでした。本当にありがたいと思いました。感謝の気持ちで一杯です。他の保護者も涙ながらに、「がんばっていたら、三年間見てくれる人がいるって分かった。ありがたい」というお言葉でした。ありがたいと思いました。乱筆失礼しました。

*

そんなつもりで書いたわけではなかったのに、恐縮です。

親が子を思う気持ちは、たいてい同じです。ならば、我が子を大切に思うように、障がいがあるうと、在日だろうと、被差別部落だろうと、他の子を大切に思う気持ちだって、同じはず。そのシンプルな原理に立ち返れば、差別は無くせます。